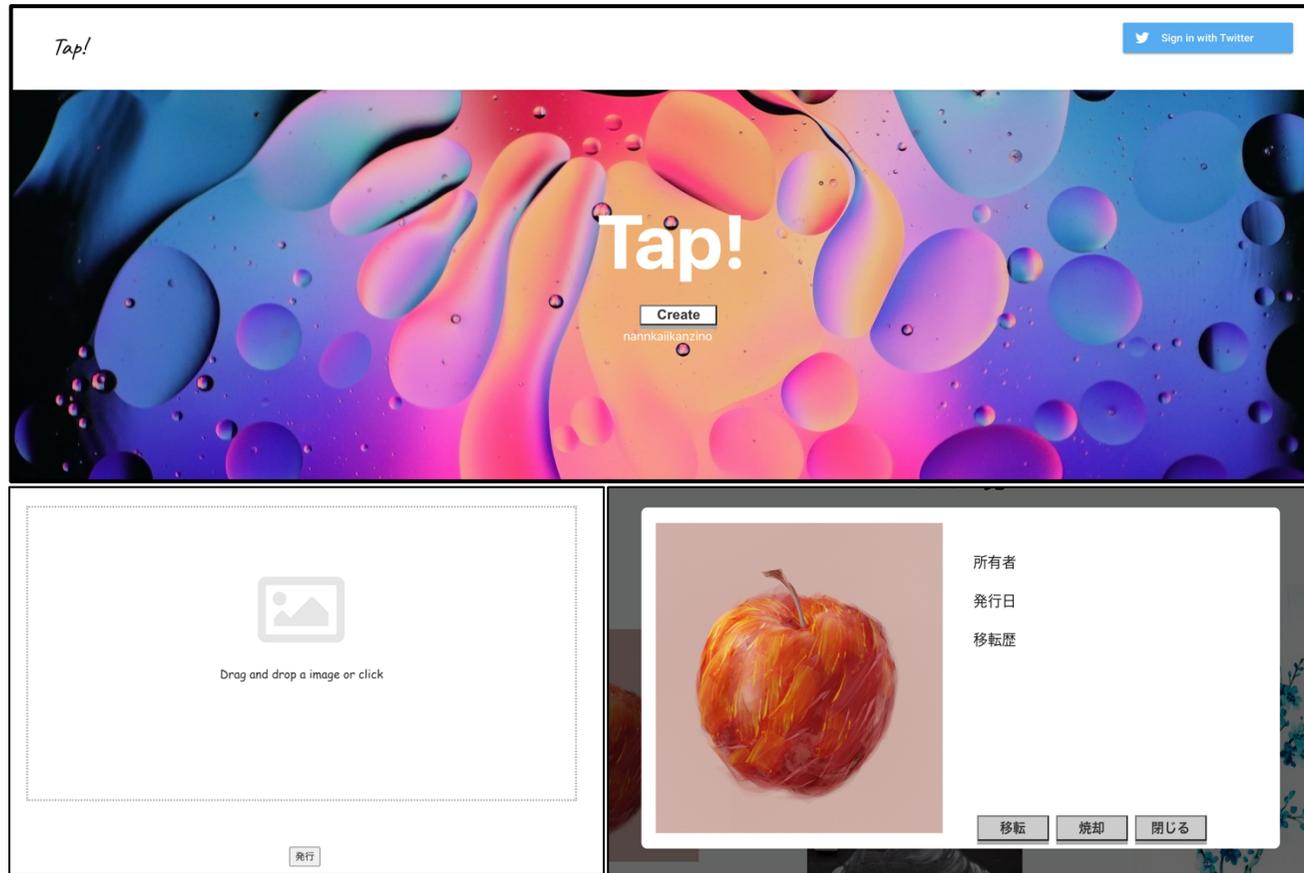


チーム名	秋元としまむら（あきもととしまむら）
アプリ名	Tap!（タップ!）
アプリ概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ NFT技術を用いた『作品管理プラットフォーム』 <ol style="list-style-type: none"> 1. NFTにより唯一性を保証、所有者情報を明確に保持 2. アカウントに紐付けてウォレットを作成、そのウォレット名義でトークンを発行 3. 対象の作品データはIPFS上に保存しCIDをトランザクションに書き込むことでオンチェーン管理を実現 4. 「作品に対しNFTを発行し所有者情報・唯一性を保つ」ことがメインであり、流動性には重きを置かない 5. 「作品」とはあらゆるデジタルデータを指す。写真・絵・動画・文章 etc... (ただし時間の関係上チャレキャラの期間内では画像データの取扱のみを実装) ■ NFTと暗号通貨の切り離し <ol style="list-style-type: none"> 1. 暗号通貨に対し、ユーザーは投資的性質を持つことからの抵抗意識などがあるように思われる 2. 暗号通貨との親和性が高い（解釈によっては暗号通貨そのものである）NFTを、あえて暗号通貨から切り離して提供するサービスを作りたい 3. OpenSeaなどの競合NFTサービスとの違いは“非Crypto的なNFTの活用” ■ 『俺が先だが』システム <ol style="list-style-type: none"> 1. 作品をパクられた時にトークンのタイムスタンプを根拠に「俺が先だが？」ができる ■ 『それ欲しい』システム <ol style="list-style-type: none"> 1. トークンの移転機能 2. アカウント名を指定し、対応するウォレットに対してトークンを移転 3. Tap! プラットフォーム上での金銭的なやり取りは一切発生させない ■ 『ちょっと待て』システム（時間の関係上、チャレキャラの期間内では実装しません） <ol style="list-style-type: none"> 1. ブロックチェーンである特性を生かして複数人による認証システムを用意 2. 不正なトークンが発行された場合はトークンに対して「ちょっと待て」 3. 「ちょっと待て」されたトークンにはフラグが建てられ、複数人により「本当に作成者の意図に沿って発行されたトークンであるか」を検証 4. 一定の期間後、一定数の不正報告があればトークンは燃やされるorブロックは破棄される

アプリ画面



コンテストへの 意気込み

二人とも「授業でPython触ったくらい」の知識・レベルでの参加でしたが、今回使った技術「ブロックチェーン・Tapyrus・Docker・Ruby・Ruby on Rails・CentOS・HTML・CSS・JavaScript・React」の全てにおいて、ほぼ初見の技術を短期間で身につけ実装することが一番大変でした。また何も知らなかったからこそ新しく知ったことや躓いたことなどはなるべくNotionで記事化して残すようにし、「知識の共有」に重きを置きました。様々な面でサポートくださったメンターさんには感謝しかありません。

「やるからには全力で」をポリシーにここまで頑張ってきました。コンテストで爪痕残せるように頑張りたいです。